

宮崎県議会議員
田口ゆうじ
議会だより

きおな

第6号 平成21年1月 編集/発行 田口ゆうじ



新春の南浦海岸



田口雄二

旧年中は大変お世話になりました。本年も宜しくお願ひ申し上げます。

昨年まさに激動の一年となりました。特にアメリカ発の金融危機

に端を発する世界同時不況により、国内の経済にも激震が走り、一気に景気が悪化し、大量の派遣社員が路頭に迷う事態に陥りました。本県においても県内最大の建設業者の破綻をはじめ、倒産する企業が続出し、経済状況は

更に深刻さを増しています。しかし、無責任にその職を投げ出した福田前総理の後任の麻生総理は、ご自身が「百年に一度の金融危機」と称したにも拘わらず、政権維持に汲々としており、緊急経済対策も打ち出せません。早急に政治を刷新しない限り、この危機には対応出来ません。一日も早い解散総選挙で国民の信を問い、真に必要な施策を迅速に実現できる強力な体制を構築することが求められています。それが景気対策と考えています。

東国原知事の任期の折り返しを本年1月末に迎えます。マニフェストの実現がまさに景気対策になりますので、その達成に邁進していただくのは当然ですが、私も元気な宮崎づくりに全力を尽くしてまいります。叱咤激励をよろしくお願ひ申し上げます。

11月定例県議会のご報告

11月19日から12月17日までの19日間にわたって開催いたしました。平成19年度決算は不適正な事務処理（いわゆる裏金）が含まれており、全会一致で不認定といたしました。平成17年度より官製談合事件、裏金発覚と続き、3年連続の決算不認定となりました。（不認定は、県当局の同義的な責任は問われますが、決算自体の効力に

は影響はありません）

その他、災害復旧費などを盛り込んだ総額10億2829万円の一般会計補正予算など36議案を可決・同意しました。また、「雇用確保に関する緊急決議」を可決しました。議員定数・選挙区調査特別委員会の採決が行なわれ、次期選挙から適用される議員定数は全会一致で合意、選挙区は自民党案で可決されました。条例改正案は2月定例会で提案されます。内容については後述します。

11月定例県議会一般質問

質問項目

1. 知事の政治姿勢
2. 多重債務問題
3. 医療・福祉行政
4. 雇用の確保
5. 物流対策
6. 教育行政
7. 警察行政



質問要旨

知事の政治姿勢

【質問】麻生総理は経済が未曾有の危機に直面しながら、有効な手立てを打つことができ

ない。就任して約2ヶ月経過した麻生内閣を知事はどう評価しているのか。

【知事】山積する課題に懸命な努力をしていると思うが、政策決定がスピード感に欠け、対応が後手後手に回っている気がする。景気対策として、速やかに2次補正予算案を国会に通すことを何よりも国民が求めていると考えるが、提出が来年の通常国会になり大変残念に思っている。総理は地方重視の姿勢を示したので、地方に配慮した政策決定が、スピード感を持ってなされることを期待する。もしそれがなされなければ、地方から厳しい評価が下されると思う。

宮崎日日新聞(2008年12月6日)



田口雄二議員(民主、延岡市)は新型インフルエンザ

県議会 一般質問

第2日

に対する県の備えについてた
 だした。
 宮本尊福祉保健部長は「事前準備と発生段階の対応を盛り込んだ『新型インフルエンザ対策行動計画』を年内をめぐりに策定する。今後はこの計画を実効性あるものにした」と答弁。現在、9万6000人分の治療薬タミフルを県が備蓄していることも明らかにした。
 田口議員は多重債務問題をめぐる県内の状況も質問。
 丸山文民県民政策部長は2007年度に県消費生活センターへの相談件数が900件を超えていると報告。「多重債務に陥った要因は、生活費や教育費の不足、クレジットカードの過剰利用などで、相談者の平均債務額は約280万円。給与所得者が約6割を占め、年齢は20~40代が多い」と説明。弁護士会や司法書士会と連携した無料相談会など債務者救済に向けた取り組みを紹介した。

宮崎日日新聞(2008年12月6日)

傍聴席

読み間違い勘弁を

○…田口雄二議員(民主、延岡市)は、質問冒頭で「なにぶん教養が不足していますので漢字の読み間違いがあるかもしれません、勘違いと思つて笑い飛ばしていただき」と切り出し、漢字の読み間違いが指摘された麻生首相を皮肉った。
 麻生首相の経済対策に対する評価を尋ねられた東国原知事は「速やかに2次補正予算案を国会に通すことを国民が求めている。今は未曾有(みぞう)の世界金融危機なので与野党は協力すべきところは協力してほしい」と読み間違いを訂正した。
 質問終盤に国政転身の可能性を問われると「将来のことは予測が難しい時代背景になっている。『みぞう』ではなかつて…『みぞう』の事態が発生する可能性があるのでは、先のことは何とも言えない」と、しつかりとほけてみせた。

医療・福祉行政

【質問】 本県のB型、C型肝炎ウイルスの感染者数と、インターフェロン治療に要する患者の負担軽減を目的とした肝炎治療費助成事業の受給者数、助成事業と無料検査の啓発の取り組みについて。

【福祉保健部長】 本県に2万人～3万人の感染者と推定される。助成事業は本年4月より開始し、受給者は11月末時点で402人。啓発については、県庁ホームページや県広報誌・新聞等において、肝炎ウイルス検査の実施について周知をはかり、検査を受けるようすすめている。各保健所や医療機関で無料検査を実施。今後も肝炎治療助成事業の活用について周知をはかり肝炎治療の効果的推進に努めて参りたい。

教育行政

【質問】 これまでの大気汚染や水質汚濁等の自然破壊を鑑み、美しい郷土や地球環境を守り、環境に配慮した生活を実践できるよう大人から子供までの環境教育を進めることが大切である。本県の環境教育の取り組みについて。

県議会一般質問

「医師確保の必要性感じた」

延岡病院視察で東国原知事

東国原知事は5日の県議会定例会で、十月二十三日の県立延岡病院視察について「スタッフ不足など厳しい環境の中で頑張りに、改めて医師人材確保の必要性を感じた」と感想を述べ、今後とも県北の地域医療充実を全力を挙げる考えを示した。田口雄二議員(民主、延岡市区)の一般質問に答えた。

田口議員は「現場の生の声を聞き、どう感じたか」と尋ねた。知事は地域のの中核病院として高度で良質な医療提供のため、医師や職員が昼夜を分かたず懸命に取り組んでいることがよく分かった。医師の負担軽減策として、地元自治体や医師会などと協力していわゆるコンビニ受診の自衛隊を呼び掛ける支援キャンペーンを行っているが、さらにさまざまな手立てを講じたい」と述べた。知事は併せて、本県の人口十万人当たりの医師数が、最も多い宮崎・東諸県医療圏の三百四十四人に対し、県北部医療圏は百八十一・〇人など地域的偏在にも触れ、格差是正に向け「へき地への医師派遣、医師修学資金などによる医師確保、大学への医師派遣要請など対応、対策に全力を尽くす」と強調した。田口議員はまた「今県北に求められているのは即効性とし、資格をしながら現場を離れている女性医師について、現場復帰支援の必要性を指摘」

宮本尊福祉保健部長は「十八年十二月現在、十一人おられる。国家試験合格者が三分の一に上るなど今後女性医師はますます増えそれに伴い、出産や育児で現場を離れる方も増えそうだ。育児をしながら働き続けられるような環境整備に努める」と答えた。



5日の本会議で「国政転身」に関する質問に答える東国原知事＝県議会

知事「国政転身」余波続く

衆院の解散・総選挙は先送りされたが、東国原英夫知事の「国政転身騒動」は尾を引いている。開会中の県議会では県議たちが連日、「任期を全うするのか」と知事をたたき、知事は「ずっと今は考えられない」と述べている。「一貫性を強調。しかし、2カ月前の騒動の渦中には、自民党側と接触を重ね、転身を「悩んだ」と揺れた心情を周囲に漏らしていたという。ただ、知事は取材に対し、自民側との会談の事実は認めていない。

県議会追及、知事は「含み」

「なぜ断言できないのか、が、「明快な答弁を」と国政奥歯に物が挟まったような思に転身せず任期を全うするとわせぶりの話し方だ」。5日の一般質問で、民主の田口雄二議員が知事を痛烈に批判した。一方、「将来が予測不可能な時代」と含みを残すのを恐れ

5日の本会議で「国政転身」に関する質問に答える東国原知事＝県議会

【教育長】 環境問題が地球規模の問題となっている今日、児童生徒が環境問題への理解・関心を高めていくことは重要。このため、県教育委員会は小学校3校、中学校4校、県立学校4校の計10校をモデル校に指定し、環境教育を推進。ごみ処理問題や河川の水生生物の観察、緑化運動、1人1鉢運動等、積極的に取り組んでいる。今後とも教育環境の推進・充実に努めていきたい。

活動フォト



議会傍聴に来てくれたお二人と民主党県議団(08.12.5)



食の確保・食の安全対策特別委員会でニチレイ・フーズ(大阪府高槻市)を視察
(08.10.23 横田委員長と延岡市出身の前屋敷議員)



上海・宮崎県人会('02年12月発足・会員134名)の皆さんと。みんなパワフルで頼もしい宮崎のセールスマン(08.12.19)



民主党宮崎県連大会
(08.12.13)



上海・宮崎県人会で延岡市出身のお二人と。
(加藤さんと梶原さん)
(08.12.19)

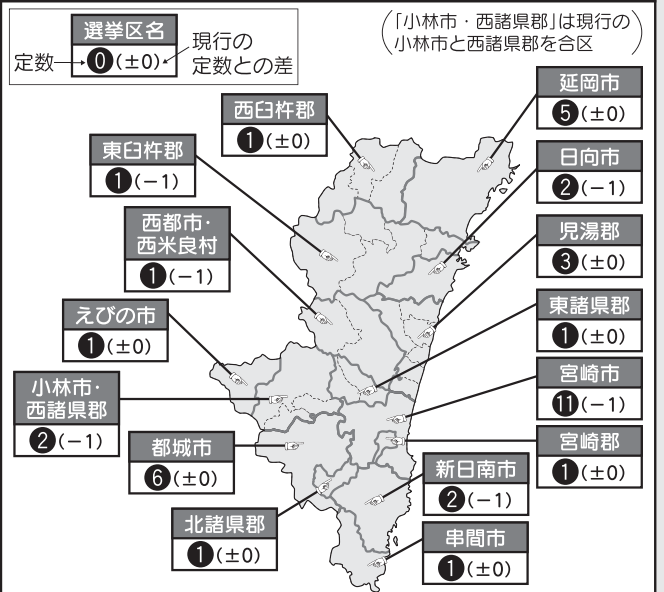
議員定数・選挙区調査特別委員会のご報告

定数に関しては、**全国一の削減率となる6減の39議席**を全会一致で合意。

しかし、選挙区は自民党以外の4会派が、議論を尽くしていないと抗議の退席をするなか採決され、わずか2週間前に出された自民党案(右票)が可決されました。特に私たちが問題とした1人区の取り扱いについては平行線のままでした。当選者以外の対立候補の得票分がすべて無駄(死に票)になる率が複数人区よりはるかに高くなり、1人区は多様な意見が県政に反映されません。しかし、自民党案では逆に1人区が増加(7→8)しており、受け入れ難いものでした。

条例改正案は2月定例会で提案され、可決すれば次期選挙より適用されます。

県議会の選挙区見直し



**県政
相談**

ご意見・ご要望をお気軽にお聞かせ下さい。

TEL FAX : 0982-26-1945 携帯 : 090-5021-7729

田口雄二 住所 : 延岡市夏田町445-1

e-mail: gucci-yu@ma.wainet.ne.jp